

# 原点は「結い」のころ

お話を伺う中で、特に印象的だったのは「結い」という言葉です。これは、「一人で行うには多大な費用と期間、そして労力が必要な作業を、集落の住民総出で助け合い、協力し合う相互扶助の精神」という日本に古くからあった風習のことだと教えていただきました。

機械による省力化から結いも必要なくなっている現代ですが、作業の効率を追求した結果、それにより保たれていた「近所付き合い」までも希薄化されてしまったと、先生も嘆かれています。

地域福祉の推進にあたっては、子供のころから福祉の心を養うことも大切で、これにご協力いただきたく、村内小中学校の校長先生をはじめご担当教諭のみなさまにお会いしてきました。



平成23年5月20日  
 そよかぜ委員会事務局  
 筑北村社会福祉協議会  
 電話：66-2506  
[www.chikuhoku-shakyo.or.jp](http://www.chikuhoku-shakyo.or.jp)

社協が進める地域福祉は、この結いを復活させるとまではないかもしれませんが、せめて「近所付き合い」を今よりもっと深いものにしてきたらいいと考えています。

次代を担う子供たちに、今から福祉の心が備わっていれば、将来の筑北村に地域福祉は当たり前となり、わざわざ「地域福祉」などと言葉にしなくてもよくなる時代がやってくるかもしれません。

県北部（栄村）の地震による被害の復旧復興を支援する栄村復興支援機構が、地震発生から一週間ほど経った三月十八日に発足しています。その活動を支えるのは賛同するボランティアであり、その

## 震災義援金受付中（社協各支所窓口にて）

力こそが結いの精神であるということから、この機構に「結い」という名前が付けられました。きっかけは災害ですが、この結

## 福祉教育

〜学校から地域へ〜

社協が運営しているデイサービスセンターには毎年、保育園、小学校、中学校の子供たちが交流にやってきました。ご利用いただいている方にとっては、孫やひ孫くらいの子供たちです。毎回のろいろ工夫を凝らした内容で交流を行なっていただき、その都度ご利用者さんは目を細めて、楽しんでいらっしやいます。

いこそが地域福祉の原点であり、いま改めて人々が地域福祉の必要性を実感している時なのではないでしょうか。

ことを学んでいただきました。限られた時間の中での体験でしたので、十分なお手伝いができなかった不安も残りますが、生徒さんたちの話を聞くときの真剣な眼差しは、筑北村の将来に明るい希望の持てるものでした。

先日、聖南中学校から、この交流に先立ち、福祉のことを考える授業をするとのことをお話をいただき、スタッフ四名でお手伝いに伺いました。

社協では、学校中心に進めてきた福祉教育を、もっと広く地域全体で行ないたいと考えています。光をそそぐ支援事業によるニーズの発掘とともに、そのニーズのうちのいくつかには応えられる地域力を養うこと、これが地域福祉の推進には大変重要なことです。「福祉教育」というとつい構えてしまいがちですが、もっと気楽に「できることをやればいい」ということをわかっていただければ、継続した力になり得ると信じています。

授業では、体験器具や実際に介護現場で使用している器具等を使っての体験を行いました。これらの体験を通じて、様々な困りごとや障害を抱えた方の気持ちを理解し、その方のお手伝いをするとはどういうことなのか、という